台湾／高雄市立六亀高校の歌声を日本東北／大槌・石巻に繋ぐ

2015. 6.28 - 7.1

被災地市民交流会

はじめに

今年１月高雄の芸術村白屋（蒋耀賢運営長）から、「台湾南部高雄の水害被災地にある六亀高校の合唱団及び太鼓部の一行が、6 月末、東北の被災地を訪れて歌声を届け、日本の高校生らと交流活動を行いたい。交流先との調整をしてほしい」との要請が被災地市民交流会に届いた。是非、この交流計画を成功させたいと考えた私たちは、槌音プロジェクト（臺隆明代表）、石巻市文化協会（西條允敏会長）の皆さんと協力しながら、大槌高校(29 日)と石巻好文館高校（30 日）への訪問を軸に企画を進めてきました。

六亀高等学校は、高雄市の北端、平地と山地が交わる風光明媚な六亀区にあり、漢民族・客家・原住民族等多様な民族の子弟が学んでいます。88 水害(8 月 8 日莫拉克台風による豪雨災害)が発生した 2009 年に合唱団が設立され、災害の苦しみから抜け出し、新しい未来に向かうための大きな力となりました。その後先生方の熱心な指導の下、様々なコンクールで優秀な成績をあげるまでに成長しました。

こうしたことから端を発して、2015 年日本を訪問する国際文化交流活動の計画が持ち上がりました。88 水害などを経験した六亀高等学校は、合唱団の成立以来多方面から支援を受けました。そのお返しの意味も含め、311 巨大地震と津波に襲われ、現在も痛みを抱えている日本の東北地方を訪れ、音楽や芸術による交流を通じて、震災後の心の再建と震災に立ち向かった経験を一緒に分かち合いたいと考えたのです。そして、費用を積み立て、寄付を募りながら実現にこぎつけました。

大槌高校と石巻好文館高校両校は、いずれも大変快く台湾の六亀高校の要請を受けていただきました。そして、先生方、学生さんたち全校をあげて準備をしていただきました。その努力の結果、交流活動は大成功に終わりました。この報告書は、簡単ですが交流活動の一端を記録にとどめたものです。

震災等で被害を受け，国内外からの支援に支えられながら音楽活動を通じて被災を乗り越えてきた学校同士の国際交流が、今後さらに発展することを願っています。

2015．9.1

被災地市民交流会

（本報告書作成に当たり、参加者の facebook 上から多くの写真を使用させていただきました。）

活動報告

6 月 28 日（日）

早朝高雄国際空港に集合した一行。8 時の飛行機で成田へ向かう。「さあー、日本へ！」

遠路、ご苦労さま

台湾六亀高校一行 75 人は、12 時 15 分成田空港に到着したあと、バス 2 台に分乗して一路大槌へと向かった。私（垂水）はこの日神戸から大槌入りし、槌音プロジェクトの臺さんと共に三陸花ホテルで待ち構えていた。バスの運転手から成田を 2 時に出発するとの連絡が入ったが、予定通り 22 時に着くかは心もとない。案の定バスは 1 時間半以上遅れ、さらに大槌へ入ってから方向を見失い、ホテルに到着したのは、もうそろそろ日付が変わろうという頃だった。

左から 4 人目、陳校長。

陳校長以下先生方、学生たち、さらに芸術村のスタッフらが次々とバスを降りてくる。早朝 4 時に六亀高校を出てからの長旅だ、「お疲れ様でした！」

75 名がロビーに勢ぞろいすると、改めて人数の多さに圧倒される。手慣れた台湾のガイドの流暢な説明と断固とした指示に従って、混乱もなくそれぞれの部屋へ向かった

6 月 29 日（月）

被災地視察

朝 9 時、大槌の被災地を視察するため、前日同様 2 台のバスに分乗してホテルを出発した。トランシーバーで 2 台のバスに情報を伝えながら、臺さんが自分の車で先導する。

安渡の漁港で。右前方海上にひょうたん島が見える。

まずは安渡の漁港に降りたった。目の前に「ひょうたん島」を見ながら臺さんの説明を聞く。次に向かったのは、旧大槌町庁舎だ。このあたり一帯は区画整理事業に伴う造成工事が真最中で、見渡す限りこの庁舎以外にかつての町を物語る建物は見当たらない。庁舎前に置かれた慰霊の地蔵に向かって手を合わせる。

そして、復興商店街「きらり」へ。月曜日は定休日だが、何軒かのお店に特別この時間帯開けてもらった。台湾の学生たちもそれぞれに覗いて買い物を楽しんだ。そして、これから始まる合唱や太鼓演奏のための衣装を纏って準備完了、次の大槌町長の表敬に向かうためバスに乗り込んだ。

大槌町長を表敬

大槌町は人口 1 万 3600 人、漁業を中心とした町で、後背部には農山村も含む。一方台湾の六亀高校がある高雄市六亀区（元の高雄県六亀郷）は人口 13,663 人（2014 年 12 月）の農山村を中心とした地域。共に災害を受けた両地域には共通点も多い。

表敬が終わって、記念撮影。

今回の活動のスタートにこの大槌町長を表敬するのは意義深い。町役場の多目的会議室で開かれた歓迎セレモニーで、大槌町長初め副町長、教育長などが迎えてくださった。また、臺さんの紹介で吉里吉里保育所の園児たちも先生方と一緒に出席してくれた。六亀高校の陳弘裕校長は「今回の交流が災害に立ち向かう両地域の住民の心の架け橋になり、ともに復興に進んでいきたい」

とあいさつ。碇川大槌町長は「歌を通じた激励は心通じるものを感じる。ともに試練を乗り越え頑張りましょう」と歓迎の言葉を述べた。

この後、原住民族の衣装に身を包んだ六亀高校合唱団による「布農(ブノン)組曲」が披露された。台湾は多民族国家で、その中の原住民族だけでもさらに16の種族に分かれている。台湾の六亀高校は高雄市の六亀区にあり、布農族（ブノン族）が多く居住している。この「布農組曲」は、最も伝統のある八部合音（ハーモニー）、豊年祝賀歌、家へ帰っておいでと呼びかける歌、児童歌謡などなど、６曲の伝統歌謡を再構成したものである。

力強く伸びやかな歌声と、独特の動きを合わせた勇壮なステージが、出席者の心を魅了した。そして、一同記念写真を撮って大槌町の表敬訪問を終えた。

城山で昼食

大槌町舎を出てすぐ坂道を上がると「城山」へ出る。ここはかつて山城があった場所で、大槌を一望する公園として公民館や体育館も整備された。震災の際は、津波を逃れた多くの町民がここを目指して避難した。この城山から今も津波の爪跡や復興の様子を一望できる。また、阪神大震災の犠牲者を慰霊する「1.17 希望の灯り」が、神戸からここ城山の一角に分灯されて、静かに大槌の復興を見守っている。

一行は、公民館で弁当の昼食をとった後、三々五々城山から被災地を望むこととなっていた。指導の先生を含め９人の太鼓部のメンバーは、希望の灯りや市街地を見ていたが、その内公園内の木製テーブルに座って一斉にリズムを取ってテーブルをたたき出した。さすが太鼓部、そばにいる若い女性指導者も学生に見間違うほどの一体感がある。

希望の灯りを囲む太鼓部のメンバー

ところで合唱団の学生たちの姿が見えない、どこへ行ったのだろう。探してみると、食事後まだ公民館に残って合唱の練習をしている。次の大槌高校の活動に備え練習をしているのだ。指揮に余念のない指導者の陳俊志先生は、その優しそうな外見では伺えない音楽への情熱をお持ちなのに違いない。

さあ、そろそろ時間、今日のメインの交流活動である大槌高校へ行かなければ。

ようこそ！六亀高校へ

「ようこそ、いらっしゃい！」大槌高校に到着すると、校舎入口で待ち構えていた先生方や学生さんが迎えてくれた。早速控室の教室に案内され、しばし両校長などで懇談した後、準備が整った交流会場である体育館へ。大槌高校はこの交流プログラムに全校学生、全校の先生方が参加してくださった。正面向かって左手に大槌高校の学生さんが着席して待機している中、大槌高校の吹奏楽部のメンバーの演奏に合わせ、大きな拍手で迎えられて入場し、正面向かって右側に着席した。

大槌高校の交流企画の中心的役割を担われた鈴木尚副校長の進行でプログラムが始まる。まずは、大槌高校の小田島正明校長から歓迎の挨拶が述べられた。続いて六亀高校の陳弘裕校長から訪問の挨拶が返された。

台湾メンバーの入場を演奏で迎える吹奏楽部。（上）
挨拶する小田島校長。（下）

六亀高校の発表

演奏の発表は、六亀高校の太鼓から始まった。太鼓クラブは設立して１年余りの新しいクラブだ。皆が一丸になることを心がけているという。3 曲の演奏で十分そのまとまりと力強さが伝わってくる。

次に、合唱団の発表だ。ブヌン組曲初め原住民族の曲を中心に 3 曲披露した。コンクールでも数々の入賞をしたという通り、レベルの高さは相当のものだ。民族音楽の珍しさと共に、鳥の声や自然の音を交えた歌声を聞いていると、山深い自然の景観が目に浮かぶようだ。

大槌高校の学生、先生方も、台湾の異なった文化を直接味わえる機会を楽しんだよ

太鼓部（上）と合唱部（下）の発表。

うだ。休憩を挟んで、さあ、今度は大槌高校の番である。

大槌高校吹奏楽部

大槌高等学校吹奏楽部は、毎年全日本吹奏楽コンクール岩手県大会で金賞を受賞する実力校だ。震災を契機に各地で訪問演奏を行い、又他校の訪問を受けて交流をするなど、活動範囲は一気に広がった。「震災は不幸な出来事ですが、今まで経験できなかった機会も与えてくれました。」と吹奏学部の高木桜子部長は語る。

1 曲目、2 曲目と普段培ってきた演奏を披露した。そして 3 曲目は、AKB の「恋するフォーチュンクッキー」だ。大槌高校吹奏楽部の提案で、台湾の方にもあらかじめ、「この曲に合わせてみんなで踊りましょう！」と伝えてあった。曲が始まると乗りのいい台湾の学生らは、「オーッ」と声をあげて踊り出す。踊り慣れた振りのものもあるが、ほとんどは怪しい動きだ。大槌高校側の自信のあるメンバーが正面に並んで見本を見せる。ともかく、体育館は打ち解けた雰囲気が一気にみなぎった。

演奏する吹奏楽部。（上）　「恋するフォーチュンクッキー」に合わせ踊る両校学生たち。（下）

虎舞いに台湾勢もビックリ

虎舞はこのあたりの地域に伝わる伝統的な舞いだ。二人一組になって虎頭に入り、太鼓や笛、威勢のいい掛け声に合わせて、とんだり跳ねたり寝ころんでみたり、大変激しい動きが魅力である。いくつかの地域にそれぞれ特徴を持った郷土芸能保存団体グループがあって、祭礼などで演じる。大槌高校にも虎舞いのグループがあり、台湾の皆さんにお披露目しようと張り切って練習に励んできた。「さあ、やるべし！」

しるしばんてん（印半纏）に身を固めた 10 名ほどの学生たちが、太鼓や笛を鳴らしながら入場する。やがてその内二人が虎

郷土芸能虎舞い、なかなかの迫力だ。

の衣装の中に入り虎舞を舞う。なかなかの迫力に、見とれてしまう。ひとしきり舞うと体力の限界だろう、今度は新たな二人が交代する。虎は２匹に増え、笹竹を食い散らすなど、さらに様々なパフォーマンスをする。時に、台湾勢の席に吠え掛かるように威嚇すると、さすがにこの虎舞いの迫力にビックリ、興味津々一斉にカメラを構えていた。

フィナーレ―「再見！」

そろそろ終わりの時間が迫って来る。台湾側の提案で、みんな一緒に原住民族のダンスをすることに。両手を交差してそれぞれ隣の人と手を組みながら円陣を作り、前後そして左右に動く。けつまずいたりするが、何とか大きな人の輪ができて、そして揺れ動く。

その後はプレゼントタイム。双方の学生たちが用意してきたものを渡し合う。そして、いよいよ台湾勢が退場していくときには、大槌高校生は列を作って互いにハイタッチをしながら見送ってくれた。

見送りはバスが出ていく最後まで続いた。バスに乗り込んでからも手を振り合い、写真を撮り合った。大槌高校の校長先生はじめ先生方お世話になりました。以前アートプロジェクトでお世話になった藤田先生も終始参加いただきました。吹奏楽部、虎舞いグループのみなさん、本当に有難う。これからも交流が続きますように。

皆で原住民ダンス。（上）バスに乗り込んでからも手を振り合う学生たち。（下）

マストで街なか演奏

休む間もなく、ショッピングセンター「シーサイドタウン マスト」へ向かう。5：30 から 6：00 まで、マストのセンターコートで演奏を行うためだ。今回は高校との交流が主なプログラムとなったが、短時間ではあるが「街なか演奏」をしようということで、臺さんやマストの関係者の協力で企画したものだ。

ショッピングセンター「マスト」での街なか演奏。

定刻に簡単な六亀高校合唱団の紹介の後、合唱を披露した。買い物途中の人たちが足を止めて聞き入ってくれる。ずっとベンチに座って拍手を送ってくれる人も多い。震災後台湾から東北に届けられた多くの支援は、被災地の人たちの記憶に今も残っている。今回の台湾の奥深い地域からの歌声も、好意を持って迎えてもらえているようだ。終わった時、マストに入店されているある店主の方からカンパをいただいた。被災地へ出向いてきて寄付をいただくのは逆ではあるが、交流のしるしとして有難くお受けした。

最後に、聞き終わって下さった方を含め、記念撮影となった。メンバーからホテルに戻る前に買い物がしたいというリクエストがあった。この隙間のないスケジュールでは「そりゃそうでしょう。了解！」

臺さんの講話「音楽を通して大槌の復興を」

ホテルへ戻って、今日最後のプログラムである臺さんの講話「音楽を通して大槌の復興を」がある。槌音プロジェクト代表の臺隆明さんは、震災後大槌で音楽を通して大槌の復興を目指し、大槌に町民がいつでも音楽に触れあえるホールを作りたいと精力的に活動をしておられる。今回の六亀高校の交流プロジェクトを大槌に繋ぐ上で、中心的な役割を果たしていただいた。臺さんのご長男の臺隆裕さんはかつての大槌高校吹奏楽部の部長だったが、その時の恩師の励ましもあって、その後上京してジャズを学んだ。

講話を終えた臺さんに陳校長からプレゼント。

臺さんは、身近なご家族は無事だったものの、自宅は津波ですべて流された。震災当日、出張先から大槌に戻ってきたときから、自分で撮影した写真を披露しながら、リアルな体験と共に、音楽を通して大槌を復興したいという思いを語っていただいた。

さて、ここで大槌の公式プログラムは終了、後は夕食を食べてゆっくり休んでください。

6 月 30 日（火）

陸前高田で復興経験を聞く

朝 8 時ホテルを出発、被災地の沿岸部を南下し、石巻へ向かう。途中、陸前高田の第 1 中学校へ立ち寄り、震災体験の話を伺うことになっている。しばらく車を走らすと車内は寝台車の様相を呈した。ハードなスケジュールで無理もない。次の活動に備えてお休みなさい。

「さぁ、起床ですよ！」約束の 10 時前、陸前高田第 1 中学校に到着した。陸前高田市は、震災前約人口 2 万 3000 人の町であったが、津波により中心市街地の 7 割が壊滅し、死者・行方不明者が 1700 人を超えるなど、深刻な被害を受けた。中心市街地に接する高台にあった第 1 中学には津波が間近にまで迫るなか避難者であふれた。今も校内のグランドには、多くの仮設住宅が立ち並んでいる。

今も仮設住宅が残る陸前高田第 1 中学。

中学校の体育館で、当時第 1 中学の事務職員だった村上誠二さんから震災体験のお話を聞く。流される住宅も見、津波に巻き込まれた人の悲鳴も聞いた村上さんは、避難所と化した中学校で被災者の支援に当たる一方、自宅のある長洞地区の復興に奔走された。小さな漁村である長洞地区の経験は、地域のコミュニティをベースにした復興事例として高い評価を受けている。学校が再開するまでの間、地域の子どもたちを集めて開設した「長洞元気学校」に関心を持った陳俊志さんは、何度も質問して確かめていた。

震災体験をお話していただいた村上誠二さんと陳校長。

11 時、中学校を辞し、注文していた弁当と共にバスに乗り込む。途中、壊滅した陸前高田の中心市街地を走る。今は 10 メートルほどの嵩上げを含む区画整理事業のため、土木工事の真最中だ。これを車窓から眺めながら石巻へと向かう。

石巻の被災地視察

バスは一路石巻へとひた走る。バスの中は弁当を終えた頃から再び寝台車に。それから 2 時間ほど走ったころ石巻の市街地が目に入ってきた。再び「さぁ、起床ですよ！」石巻は人口 16 万人の歴史ある港町であり、漁業・水産の町だ。震災による犠牲者数が最も大きかった自治体でもある。

2 時約束通り三陸道の石巻港インターチェンジを出た所で、案内していただけるメンバーと落ち合った。迎えていただいたのは、石巻市文化協会の山田正明専務理事、南華園の中山敏恵さんとお二人の石巻観光ボランティアである。石巻市文化協会は今回の六亀高校の石巻での活動受け入れの窓口になっていただいた。山田専務は声楽の専門家で今も市民のコーラスの指導などをされている。ボランティアと中山さんがバスに同乗して被災地視察に向かった。

観光ボランティア（右）と中山敏恵さん（左）。

すべてが失われた地に立ち続ける地蔵（門脇地区）。

石巻港の後背の市街地を西に向かって走り、旧北上川を越えて漁港へ着いた後、もう一度引き返してもっとも大きな被害を受けた門脇地区で下車した。今はあたり一帯に何もなく、ここが以前多くの人家で埋め尽くされていたとは想像できない。その中に、犠牲者の鎮魂を込めて一昨年あるNPOによって建立された地蔵が静かに立ち続けている。参加者たちは思い思いに手を合わせていた。

短時間ではあったが、被害の状況を体感できたと思う。この後好文館高校へと向かった。

ようこそ、好文館へ

もともと好文館高校は伝統ある女学校だったが、2006年男女共学になって現在の校名となった。吹奏学部、音楽部、マンドリン部などクラブ活動も盛んで、今回の活動地点として石巻での交流を提案した時、台湾側から好文館高校の名が挙がった。

最初の歓迎の挨拶をされる狩野校長。

約束の３時半少し前に好文館高校に到着した。前後して、石巻でこれまで台湾との交流活動に関わっていただいた関係者、西

條允敏さん、菊田貞吾さん、松村豪太さん、そして通訳を手伝ってもらう東北大学の留学生王尹容さんなども次々と駆けつけた。

副校長先生の出迎えを受け、さあ、どうぞ、と案内されて控室へ。両校の関係者の顔合わせが始まった。六亀高校の校長先生に続いて、好文館高校の狩野校長先生が歓迎の挨拶をされた。今回の交流受け入れで中心的役割をしていただいた音楽担当の水井奏先生初め両校の関係者が互いに挨拶を交わしたあと、しばし懇談を続ける。

中国語で両校の校歌を歌う

交流会会場の体育館には、すでに石巻高校の音楽部とマンドリン部の生徒４５名が舞台に向かって右手で待ち構えている。六亀高校合唱団と太鼓部の学生や関係者が入場すると大きな拍手で迎えた。

好文館高校合唱部の発表。指揮は水井先生。

司会は好文館の学生２人が行う。両校の校長挨拶に続いて、両校学生代表の挨拶が続く。好文館高校音楽部部長須藤由真さんが歓迎の挨拶をおこない、六亀高級中学合唱団杜慈穎さんが返礼を行った。

演奏のトップは好文館高校マンドリン部が務めた。続いて音楽部が「銀河鉄道９９９」などを合唱した。その後両校の校歌を中国語で歌い始めた。実は、サプライズということで、ひそかに六亀高校の校歌を入手、猛練習していたものだ。六亀高校の学生たちから声援の声が上がった。

異なった文化に触れる

これに対して六亀高校はまず太鼓部の皆さんが「三つ打ち」と「大団円」を披露した。舞台の上での演奏だったが、演者の一人が舞台を降りてパフォーマンスをするなど、楽しい演出だ。

「ブヌン族の組曲」の八部合音。

続いて合唱団の皆さんが「大武山の美しき母」や「ブヌン族の組曲」など原住民の歌を心合わせて歌い上げた。観客のすぐ近くのフロアーで行われた合唱は、なかなかの迫力があった。原住民族の独特の歌声や踊り、10 名ぐらいの男子が円陣を囲んで低い声で多重ハーモニーを奏でるブヌン族独特の「八部合音」など、

異なった文化に直接肌をふれるおもいだった。

最後に、原住民の伝統舞踊をみんなで踊りましょうと、六亀高校の皆さんの呼びかけで両校生徒が輪になって楽しく踊り、交流会は大盛況となった。

校外の参加者にも感銘

六亀高校の校区にある高雄市桃源区がふるさとという現在石巻在住の女性が、この交流を聞きつけて最後まで参加していた。遠く離れた地での同郷人の姿に、懐かしさが湧き上がるという様子であった。

石巻市文化協会の山田専務。（右から 2 人目）

石巻の交流活動の橋渡しをした石巻文化協会の山田専務は、音楽関係のプロとしての感想をお持ちだった。終了後、指揮の陳俊志さんらと懇談のなかで、伝統的な楽曲を合唱曲にアレンジしている点や合唱を作り上げる熱意などに好感を持ったと激励していた。

全員で記念撮影

ハードな交流の旅、ご苦労さま

そして、好文館高校の学生や先生方に見送られながらバスに乗り込み、今日の宿泊地仙台に向かう。これで、二つの高等学校を中心にした交流の公式行事は終わった。ハードな交流の旅、ご苦労さまでした。

日本の東北地方でも、二つの高校そしてそれぞれの地域は、震災で大きな被害を受けながらも，国内外からの支援に支えられ、音楽活動を通じて被災を乗り越えてきた。遠く離れていながらも，六亀高校と同じ境遇にあったことを、目で見て、歌を歌って、心から実感できた。このことが最大の心の土産になったといえる。

番外編

芸術村からのプレゼント―海の守り神「馬祖」

ところで、今回このプロジェクトを私たちに紹介した芸術村「白屋」から、スタッフ 2 名が同行している。その目的の一つは陶板のプレゼント贈呈である。2012 年から台湾と東北との交流アートプロジェクトを大槌や石巻で実施してきたが、そこでお世話になった組織や人々に、今回改めて記念の陶板をお渡ししようということである。

陶板は、石巻で行った白屋プロジェクトでの作品の中から、張新丕さんが描いた海の守り神「馬祖」を原画に今回改めての製作したものだ。（30 ㎝×30 ㎝）

海の守り神「馬祖」（原画　張新丕）

まずは、この復興商店街で 2013 年大槌白屋プロジェクトの際お世話になったおらが大槌夢広場の上野拓也さんに手渡すことができた。台湾のメンバーが良く通った居酒屋「みかドン」はあいにく都合がつかなかったので、上のさんに託す。

その後、大槌町長には表敬の際に贈呈した。その後、昼食をとった「城山」でカリタス大槌のなまりさん、旧ビジネスホテル寿のオーナー道又さんにお渡しする手はずになっていた。道又さんに続いて現れたなまりさんから意外な事実が。「神田さんが別件ですぐき来ます。」といい終わらないうちに本人が現れた。お互いに、「なんで、こんなところにいるねん！」ともかくも偶然の邂逅を祝しながら贈呈式は終わった。

大槌高校、臺さんにも、この後贈呈した。

おらが大槌夢広場の上野拓也さん

左からなまりさん、道又さん、神田さん

石巻では、以前の活動でお世話になった西條允敏さん、菊田貞吾さん、松村豪太さん、中山敏恵さんなどに、感謝を込めてお渡しした。

石巻市長には、代理の方にお渡しした。

石巻市担当者（左から 2 人目）

左から松村さん、菊田さん、西條さん。

大槌行程表

6 月 28 日 （日）	23:30　三陸花 Hotel 到着	
6 月 29 日 （月）	9:00－11:00 被災地視察	蓬莱島 → 旧大槌庁舎 → 復興商店街 → 大槌庁舎
	11:00－11:45 碇川大槌町長表敬訪問	挨拶 献唱　「ブノン組曲」 記念品贈呈
	12：00 - 13:15 昼食（城山）	昼食（弁当） 被災市街地俯瞰　「希望の灯」
	13:40－16:40 大槌高校訪問活動	開会セレモニー（挨拶　記念品-陶板含む） 六亀高校「合唱」「太鼓」の発表 大槌高校「吹奏楽部」「虎舞い」の発表 生徒交流（原住民族ダンス、プレゼント交換） 閉会・見送り
	17:30－18:00 街中演奏（マスト広場）	
	18:30 復興経験交流 夕食（三陸花 Hotel）	講話「音楽を通して大槌の復興を」 槌音 Project 代表　臺 隆明

石巻行程表（陸前高田を含む）

6 月 30 日 （火）	8:00　三陸花 Hotel 出発	
	10:00－11:00 復興経験交流 （陸前高田第 1 中学校）	講話「震災体験と復興に向けた取組み」 村上誠二さん
	14:00－15:30 石巻被災地視察	石巻港 → 漁港 → 南浜地区 → 好文館高校
	15:30－18:40 石巻好文館高校訪問活動	懇談 開会セレモニー（挨拶　記念品-陶板含む） 好文館高校　「マンドリン」「合唱」の発表 六亀高校　「太鼓」「合唱」の発表 生徒交流（原住民族ダンス、プレゼント交換） 閉会・見送り
	19：00－ 仙台へ	

六亀高校 2015 国際文化交流活動参加者（75 人　男 35 女 40）

教師及工作人員			16 名（6 男 10 女）		
職稱	姓名	性別	職稱	姓名	性別
領隊（校長）	陳弘裕	男	合唱團聲樂老師	許家倫	女
圖書館主任	萬孟昆	男	合唱團聲樂老師	藍家陽	女
訓育組長	曾嘉玲	女	太鼓社指導老師	蔡宜倫	女
教師	郭蓉蓉	女	工作人員	周宣宏	男
合唱團指揮	陳俊志	男	工作人員	郭泊維	男
合唱團伴奏	劉芸汝	女	合唱團助理	馬慧穎	女
領隊	謝立瑤	女	白屋人員	張芸慈	女
導遊	蘇韋禎	男	白屋人員	李嘉曼	女

合唱團團員			51 名（26 男 25 女）		
班級	姓名	性別	班級	姓名	性別
201	許葆崑	男	501	薛淯淳	女
202	陳嘉宏	男	501	蘇妙玲	女
202	利如芳	女	501	杜慈穎	女
301	曾聖文	男	501	林泑汝	女
302	鍾旻珎	女	501	潘瑋鴻	男
302	李林	女	501	簡偉名	男
302	李真凌	女	501	林立誠	男
302	溫燕婷	女	501	顏叡祥	男
302	劉百惠	女	502	林唯聖	男
302	許振鋒	男	503	江筠萱	女
302	陳艾祺	男	503	馬郁軒	女
302	戴正銘	男	503	龔亭諭	女
302	王鴻源	男	503	謝寶岳	男

302	劉羽軒	女	503	賴俊程	男
303	鄭佩琳	女	601	曾玉旻	女
303	陳卉榆	女	601	黃雅玟	女
303	林冠芊	女	601	陳少溱	女
303	江子健	男	601	賴秀慈	女
303	高中祈	男	601	許芸萍	女
401	蔡明展	男	601	王晴芳	女
401	陳皓	男	601	林湘珉	男
401	曾懿慧	女	601	林盛彥	男
402	陳翌偵	男	601	李威甫	男
校友	吳明葦	男	602	朱慧娟	女
校友	賴俊彥	男	603	賴文中	男
			603	蕭詠麒	男

太鼓社社員			8 名（3 男 5 女）		
班級	姓名	性別	班級	姓名	性別
601	紀美朱	女	602	杜孟儒	女
603	劉宜汶	女	603	李亭達	男
602	黃子嘉	女	401	何易杰	男
603	陳育琦	女	602	朱享恩	男

感想

大槌町役場

台湾・高雄市の六亀高校の訪問団 75 人は 6 月 29 日、大槌町を訪れ、町役場で献唱したほか、大槌高校生と歌を通じた交流を深めました。人口約 1 万 3600 人と大槌町と同規模の六亀地区は、2009 年に台風による水害で大きな被害を受け、被災地間の交流活動を展開する被災地市民交流会の垂水英司さん(兵庫県宝塚市)の紹介で今回の訪問が実現しました。町役場多目的会議室で開かれた歓迎セレモニーで、六亀高校の陳弘裕(チェン・ホンユウ)校長は「両住民とも意思が強く、災害に立ち向かうことができた。今回の交流が両地域の心の通じ合う架け橋になり、ともに復興に進んでいきたい」とあいさつ。碇川豊町長は「歌を通じた激励は心通じるものを感じる。ともに試練を乗り越え頑張りましょう」と歓迎の言葉を述べました。凛々しい衣装に身を包んだ六亀高校の生徒たちは、民族音楽の「布農(ブノン)組曲」を披露。力強く伸びやかな歌声と、独特の動きを合わせた勇壮なステージが、出席者の心を魅了しました。訪問団は今回、宮城県石巻市も訪れるということです。

https://www.facebook.com/town.otsuchi/photos/a.251600741620984.55456.233259343455124/808463399268046/?type=1&fref=nf&pnref=story

槌音プロジェクト　臺隆明

台湾高雄市から六亀高校の合唱部と太鼓部の皆さんが大槌を訪問し大槌高校全校生徒と音楽を通じた交流を行いました！！
槌音プロジェクトは、今回の大槌での受け入れをコーディネートさせていただきました。
六亀高校のある台湾高雄市は、2009 年の台風による水害で甚大な被害を受けた被災地であり、東日本大震災で壊滅的な被害を受け、新しい未来に向けて頑張っている大槌を応援したいと生徒の皆さんが企画して実現したものです。

同じ被災者同士ということもあり、言葉はなかなか通じませんが、心が通じ合いすぐに打ち解けていました。

交流会では、最初に台湾高雄市陳菊市長様から台湾での災害発生時に日本からの支援への感謝の言葉があり、また東日本大震災被災地への励ましのお言葉をビデオメッセージでいただきました。

そして音楽交流の始まりは、六亀高校の迫力のある太鼓部の演奏で始まり、合唱部は「布納組曲」（ブノン組曲）原住民ブノン族の曲など台湾の音楽文化がよくわかる南国情緒たっぷりの歌声をご披露いただきました。

大槌高校は、勿論、吹奏楽部のステージ♪

恋するフォーチュンクッキーでは、大槌高校と六亀高校が交じり合い一緒に踊っていました。大変盛り上がったステージでした。そして大槌高校有志の「虎舞」には、六亀高校の皆さんは初めて見るその迫力に引き込まれていました。

六亀高校の皆さんは、大槌高校を訪問する前に大槌町役場を訪問し、碇川町長を表敬訪問しました。関係者含め総勢７５名の大訪問団でしたので、会場は多目的体育館で、大槌町からは碇川町長はじめ佐々木副町長、大水副町長、伊藤教育長にご臨席いただきました。

また、総務部の皆様、教育委員会の皆様も参加いただきました。

そして、可愛いゲスト、吉里吉里保育所の園児も台湾の皆様を歓迎するために参加していただきました。

また、大槌高校での交流の後は、シーサイドタウンマストにて、町民の皆様にもその素敵な歌声をご披露し多くの拍手をいただきした。
台湾高雄市六亀高校と大槌高校の音楽交流は、若い世代の暖かくも力強い繋がりができた素晴らしい交流になりました。

六亀高校陳校長先生からは、高雄市に是非おいでくださいと今後も継続した交流をしたいというお言葉をいただきました。

今回の交流には台湾サイド、日本サイドで多くの皆様にご協力いただきました。特にご尽力いただいた台湾高雄市芸術村の皆様、神戸被災地市民交流会の垂水様、関係者皆様には心から御礼申し上げます。
https://www.facebook.com/tsuchioto/posts/874317285976060?pnref=story2015/07/01

台湾・高雄市立六亀高級中学と輪になった国際交流

石巻好文館高等学校 HP

本校音楽部とマンドリン部の生徒４５名が６月３０日放課後、本校を訪問した台湾・高雄市立六亀高級中学合唱団と太鼓部の中高生５９名と音楽を通じた国際交流を行ない、友好を深めました。

開会では、両校校長挨拶に続いて、両校生徒を代表して本校音楽部部長須藤由真さんが歓迎の挨拶をおこない、六亀高級中学合唱団杜慈穎さんが丁重に返礼しました。

交流会は本校マンドリン部の演奏ではじまり、音楽部が両校校歌を中国語で熱唱したほか「銀河鉄道９９９」などを合唱しました。これに対して六亀高級中学はまず太鼓部の皆さんが「三つ打ち」と「大団円」を披露、続いて合唱団の皆さんが「大武山の美しき母」や「ブヌン族の組曲」など原住民の歌を心合わせて歌い上げました。最後の台湾伝統舞踊では、六亀高級中学の皆さんの呼びかけで両校生徒が輪になって楽しく踊り、交流会は大盛況となりました。

両校は震災等で被害を受け，国内外からの支援に支えられながら音楽活動を通じて被災を乗り越えてきました。遠く離れていながらも，両校は同じ境遇にあったことから，六亀高級中学が本校訪問を希望し、今回の国際交流が実現しました。

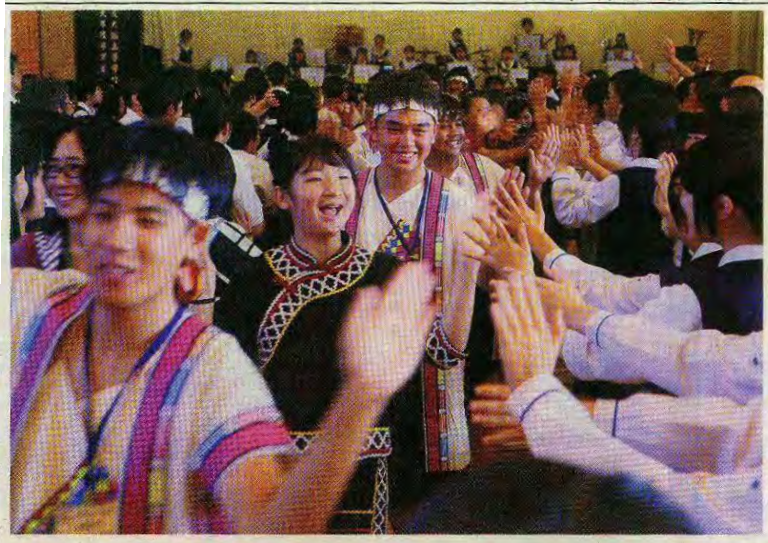
報道

岩手日報　2015.6.30

手　日　報　2015年（平成27年）6月30日（火曜日）

被災高校生が音楽交流

大槌町の大槌高（小田島正明校長、生徒238人）と台湾・高雄市の六亀高は29日、大槌高で交流会を開いた。同市は2009年8月の台風による「八八水害」で被災しており、六亀高生が「同じ被災者の立場で東日本大震災の被災地を応援したい」と同町を訪問した。歌や太鼓、郷土芸能を「共通言語」として交流し、会場に笑顔があふれた。



大槌高吹奏楽部が「花は咲く」を演奏する中、一人一人とハイタッチして笑顔で退場する六亀高の生徒＝29日、大槌町大槌

大槌高　虎舞披露「元気に」
台湾・六亀高　「心の復興」へ合唱

大槌高生233人と、六亀高の合唱団と太鼓部の生徒、教諭ら71人が参加。体育館で合唱や太鼓、吹奏楽部の演奏、有志による虎舞などを披露し合った。プレゼント交換や退場時のハイタッチなどもあり、会場は熱気に包まれた。

虎舞を披露した大槌高3年の越田悠君は「世界には色々な文化があることを知られて楽しかった。被災後大槌で頑張ってきたが、違う国にも頑張っている人がいて、こうしてお互い元気に触れ合うことができてよかった」と実感していた。

六亀高は八八水害で、校舎は無事だったが、多くの生徒が家族や自宅を失った。水害後に発足した同校合唱団が活動を通して「心の復興」を後押ししてきた経緯があり、音楽交流で同じ境遇の被災者を励ましたいと生徒が企画。募金を集めたほか、生徒自身も資金を出し合い、国や市の支援金も受けて大槌への訪問が実現した。

当初は名前を知っていた仙台市への訪問を考えたが、相談を受けた神戸市の被災地市民交流会のメンバーが「より助けが必要な場所」として同町を紹介。

音楽活動を展開している同町の「槌音プロジェクト」が窓口となり、大槌高との交流などを段取った。

六亀高3年の黄雅玟さんと顧秀慈さんは「同じく被災し、心の痛みを感じる高校生同士が明るく立ち上がることができてうれしい。今後も交流を続けたい」と口々に話した。

八八水害　2009年8月、台風8号による豪雨で、数日間にかけて台湾で発生した大規模水害。浸水や土砂崩れが起き、死者、行方不明者合わせて約700人の犠牲者を出した。現地では八八水災と呼ばれている。

日新聞　【月ぎめ購読料1800円・1部売り100円(消費税込み)】

国越えつなぐ心と音色

好文館高と台湾六亀高級中学　災害体験の2校が交流

フィナーレでは手を取り合って踊った2校の生徒たち

石巻好文館高校と台湾の中高一貫校、高雄市立六亀高級中学の音楽関係部活動の生徒が6月30日、好文館高体育館で交流会を開いた。互いに自然災害に負けず音楽活動に積極的に取り組む学校同士が歌や演奏、踊りを通して心を通わせた。

高雄市は台湾南部に位置し、平成21年8月に台風による大規模水害、22年にはマグニチュード6・4の甲仙大地震と、相次いで自然災害に見舞われた。六亀高級中は一時避難所となり、生徒たちも家屋が壊れるなどの被害を受けた。

こうした中でも、国内外からの支援で同市は復旧に向かい、生徒たちも音楽活動をはじめとした校内活動を展開。合唱部が24年の全国大会で優勝を果たすなど活躍している。

今回のために同校は音楽コンサートを開き、その収益金を来日資金に充てた。交流会は石巻市文化協会が仲介し、音楽による文化交流と、互いに被災時に受けた支援に感謝を伝えようと開いた。六亀高級中からは合唱部と太鼓部計約60人、好文館高からはマンドリン部と合唱部計約50人が参加した。

はじめに好文館高の狩野宏史校長と六亀高級中の陳弘裕校長が互いに相手国の言葉を交えてあいさつ。交流演奏ではマンドリン部によるステージの後、音楽部が中国語に訳詩した同校の校歌などを合唱した。

六亀高級中は太鼓部が伝統的な打法やリズムを含んだ迫力ある演奏を披露。合唱部も同様に動物の声をまねたり、踊りを取り入れたりといった独特の演技を展開した。最後には生徒のほか教職員など参加者全員が手を取り合って輪になり、歓声を会場中に響かせながら踊った。

好文館高音楽部の高田葵さん(1年)は「六亀高級中の合唱は楽しげ。私も笑顔で歌っていきたいと思えた」と早速の笑顔。六亀高級中合唱部の賴俊彦さん(19)は「歌うために中国語を勉強してくれるなど感動した。一緒に歌って踊り、最高の雰囲気で仲良くなれた」と話していた。

高血圧予防セミナー　16日ビッグバン　参加者を募集中

「知って得する高血圧予防セミナー」が16日、ビッグバンで開かれる。主催する石巻市

架空サイト料金を要求

東松島市の女性詐欺被害　3日にわたり計198万円

石巻署は3日、東松島の女性会社員(45)が有料サイトの料金支払いを装った特殊詐欺被害に遭い、現金計198万円をだまし取られたと発表した。

同署によると、6月17日に女性の携帯電話に架空の有料サイト運営会社から「少額訴訟のお知らせ」と記載されたメールが届いた。その後、同社社員を名乗る男から「有料サイトの未納分があるので今日中に25万円を口座に入金してほしい。入金がなければ訴訟を起こすか、自宅などに社員を派遣し回収する」と迫られたため同日中に入金した。

18、19日にも同社を担当する保険会社社員を名乗る者から未納利用料金を支払うよう求められ、合計173万円を支払ったという。その後も未納分の料金支払いを求める電話があったため、女性は会社の上司に相談。詐欺被害に遭っていることに気付いた。

女性は今年3月、同様の手口で架空請求された友人の支払いを肩代わりした。その際、アドレスなどが詐欺グループに漏れたとみられる。同署では「不安

将来のイメー

赤十字病院看護体験会　10日締

石巻赤十字病院は31日、高校生を対象とした看護体験会を開く。5月から供用開始と

石巻かほく　2015. 7.14

交流絶えず 国内外と絆

石巻地方で、国内外から迎える訪問団とのさまざまな交流が絶え間なく続いている。東日本大震災の被災地支援、同じ大災害に遭った地域同士の励まし合い、震災で中止されることなく続く長い交流と、目的や形はさまざま。受け入れる市民は、相互に生まれる絆を実感しながら復興へのパワーにしようと楽しんでいる。最近行われた交流や支援活動を紹介する。

好文館高 台湾から音楽で癒やし

石巻好文館高(585人)で先日、2009年8月の台風などで大きな被害を受けた台湾・高雄市にある市立六亀高級中学(生徒450人)との交流会があった。

台湾からは中学、高校生の太鼓サークルと合唱団のメンバー75人が来校。太鼓サークルは大きく体を動かしながら縁を打ったり、アップテンポなリズムをたたいたりした。先住民の民族衣装で登場した合唱団は台湾の生活の情景を描いた歌や友人とにぎやかに発表する歌などを披露した。

民族衣装を着て台湾の歌を披露する六亀高級中学生

石巻好文館高はマンドリン部が、ドリームズ・カム・トゥルーのヒット曲「未来予想図Ⅱ」を演奏、音楽部は校歌を合唱して歓迎した。

オープニングセレモニーでは、雄勝石のプレートと台湾の陶器を交換。フィナーレでは、両校生徒が輪になって台湾のダンスを楽しんだ。台湾の合唱部代表、杜慈穎さん(16)は「音楽を通してみんなの心を癒やしたかった。とても良い交流ができた」と話した。

同じ被災地 親睦深める

交流会は大災害の被災地同士の親睦が目的。神戸市を中心に活動する「被災地市民交流会」と石巻市文化協会の仲介で実現した。